

2001年9月3日

参考資料

株式会社 タカラ

フレッツ回線を使った遠隔操作の  
家電コントロールロボット「フレッツ・ロボ」のご案内  
NTT西日本とタカラが共同開発

西日本電信電話株式会社（代表取締役社長：浅田和男、本社：大阪府大阪市、以下NTT西日本）と株式会社タカラ（代表取締役社長：佐藤慶太、本社：東京都葛飾区、）は、NTT西日本の提供する「フレッツ・ADSL」を利用して、外出先から携帯端末等で留守宅に設置したロボットが遠隔操作で家電製品のコントロールができる「フレッツ・ロボ」を共同開発しました。これは、企画・開発をNTT西日本とタカラが共同で行うもので、NTT西日本が2001年9月よりインターネット接続サービス「フレッツ・ADSL」の拡大キャンペーンのプレゼント賞品として起用するものです。また、キャンペーン以降の一般向け販売についても、今後検討してまいります。

「フレッツ・ロボ」は赤外線を利用する家庭内の家電製品を遠隔地からコントロールできるロボットで、外出先や旅行先などから、「ビデオの録画予約」や「予約したビデオの時間変更」を可能にするだけでなく、「一人で暗い部屋に帰るのが淋しい・・・」「留守番中のペットの様子が見たい」など常時インターネットの接続環境において私達の生活をより豊かに楽しく便利にする21世紀のパートナーロボットです。

昨今、インターネット等の地域IPネットワークの急速な普及やネットワークの高速化等、情報流通社会を支えるネットワークや技術の進展に伴い、ビジネスだけでなく家庭においてもセキュリティサービスが活発化してきました。それと同時に核家族化や共働き世帯の増加や高齢化に伴う、留守宅のセキュリティ環境や一人暮らしの生活管理をより便利に楽しく演出できるパートナーロボットとの新しい生活提案が現実化されてきました。業務用、防災用では遠隔操作による画像撮影、自動送信ができるシステムが運用されはじめる一方、このようなシステムをより身近な個人ユーザー向けの視点から企画開発し、楽しく夢のある生活のサポー

トができるロボットが欲しい・・・

このような背景を受け、今回、NTT西日本とタカラでは急速に家庭で普及してきている「フレッツ・サービス」を利用し、遠隔から携帯端末等を使っていつでもどこでも、留守宅の様子を画像で確認したり、家庭内の家電製品をリモコン操作できるロボット「フレッツ・ロボ」を共同で開発いたしました。

「フレッツ・ロボ」はボディを青（ピンク）と白を基調とした2種類のデザインで顔・胴体・手・足で構成された、高さ約16センチの小型で可愛い卓上型マスコットロボットです。顔にある目にはデジタルカメラ（10万画素のCMOSセンサー・最低接写距離60cm）が内蔵されており、携帯電話等の指令で画像を撮影し、それをメールに送信してくれるので、外出先からでも簡単に部屋の様子を確認することが出来ます。

手動式の手と胴体は赤外線送受信部になっており、テレビ・ビデオ・照明など赤外線リモコンで操作する電化製品を制御することができます。「フレッツ・ロボ」は、国内主要メーカーのテレビ、ビデオのリモコン信号39機種があらかじめ登録されており、標準登録されていない機器もカスタマイズ機能を使って登録することができるので、機種が違ってもリモコン信号も制御可能です。

また、スケジュール機能も搭載し、これによりビデオやタイマー録画を外出先から設定したり、CSチューナーを起動しVTRと連動させ録画することもできます。朝の目覚ましからビデオ予約、ペットの様子をメールで受け取り、帰ってくる前に部屋の換気を行い照明を付ける、CDを聞きながら寝て1時間後に電源を落とす等生活の全てをサポートすることもできます。

これらの操作は、携帯電話等での外部コントロールが可能です。フレッツ回線を使ってインターネットに接続しているご家庭のパソコンに「フレッツ・ロボ」をUSB接続し、外部端末からの指令をインターネットを経由してパソコンが受け、その指令を「フレッツ・ロボ」に伝えます。フレッツ回線に接続していれば、常に各機能のスイッチやスケジュールの変更等、細かく設定をすることができます。

国内のインターネットインフラはようやくブロードバンド時代に突入し、今まではパソコンを中心としたインターネット閲覧やメールコミュニケーション等のコンテンツが主流でした。そのなかで、「フレッツ・ロボ」は常時接続環境でのまったく新しい付加価値として、インターネットの利便性をより生活に密着させる新しいコンセプトを持ったロボットです。

タカラでは、2000年3月より“ロボットと一緒に暮らす”をテーマに、新しいコンセプトを持ったロボットを提案しています。2000年9月には、ソーラーバッテリーで水槽の中を幻想的に漂う水中ロボット『アクアロイド』、10月には生活の中にコミュニケーションや楽しさ、ヒーリングを取り入れさらに実生活の中で役立つ機能を持った「ホームロボット」シリーズ、2001年冬にはロボットの操縦に対する憧れを形にしたヒューマノイド型多機能二足歩行ロボット「DREAM FORCE 01」も発売予定です。

また、2000年10月からは、最新の技術を使い、セキュリティ環境をより機能的なシステムで遠隔地から留守宅の様子を確認できる、画像自動送信遠隔操作カメラ「おるすばんeye」の開発に取り組む一方、2001年6月に、コナミ株式会社との共同開発による、赤外線コントローラーで動く超小型CPU搭載高性能玩具「MICRO IR DigIQ」、2001年8月には、動物と会話ができる夢の第一歩をめざして発足した「ドリトルプロジェクト」の第1弾の商品として、犬の声紋分析から犬の感情がわかる携帯型コミュニケーショングッズ「バウリンガル」を発表し、国内だけでなく海外からも大きな反響を呼びました。

今回の「フレッツ・ロボ」はパソコンの周辺機器の小型マスコットロボットとして最新のシステムを使い、ロボットと暮らす生活をより楽しく便利に提案するものです。